

株式会社誠和

佐賀市CCCSすごかガーデン

2021年3月19日(金)
大出浩睦

魅力があり 夢が描ける 農業社会創りをめざします

Sincerity&Harmony

S&H 株式会社 誠 和。



会社概要



農業振興
魅力ある農業社会づくりへの貢献
農業活性化

自動カーテン装置

全国シェア No.1



会社概要

誠和は、既に施設園芸に関する以下3つ業務を行っています。

① 機器開発・製造

② ハウスへの設置・施工などの工事

③ 高生産栽培技術を普及する教育

誠和は、これから以下3つの業務にも力を入れていきます。

④ 青果物を、新しい付加価値を創造して流通・販売

⑤ 農業経営のための経理、財務を支援する金融

⑥ 環境にも配慮した、持続可能性を持つ農業発展



誠和の取り組み

日本最高峰 「トマトパーク」



2019年度作の
大玉トマト年間収穫量

66t/10a 達成 !!

※国内平均収穫量 約15t/10a



グローバルGAPを取得

GGN 4056186839671

「食品安全・環境保全・労働安全に配慮した持続可能な
生産活動」を実践している農場へ与えられる国際的な認証



誠和の取り組み

研究圃場 「リサーチパーク鶴」



2019年度作の 各作物年間収穫量

キュウリ **50t/10a 達成!!**

※国内平均収穫量 約15t/10a

パプリカ **32t/10a 達成!!**

※国内平均収穫量 約12t/10a

イチゴ **10t/10a 達成!!**

※国内平均収穫量 約4t/10a



誠和の取組

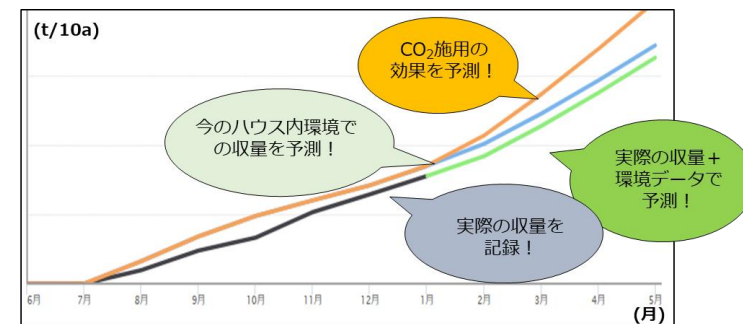
スマート農業技術の開発・実証プロジェクト

プロファイナダークラウド

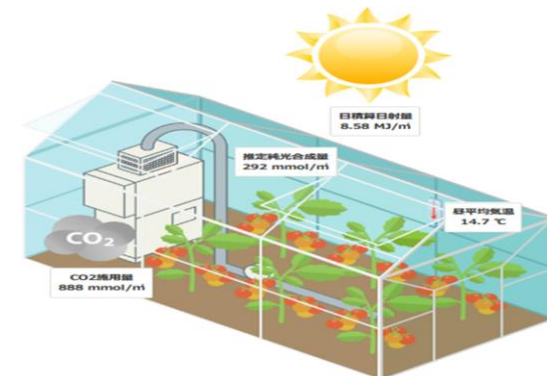


匠の技術の可視化と生産性の向上

収量予測



光合成量推定





これからの農業

農林水産省「みどりの食料システム」戦略

参考4 みどりの食料システム戦略 策定に当たっての考え方(1)

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

令和2年12月21日

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農業の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

**農林水産業や地域の将来も
見据えた持続可能な
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、生産から消費までの各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進
(令和3年3月に中間取りまとめ、5月までに戦略を策定)

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッションの実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発による化学農薬使用量(リスク換算)の削減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量の削減
- 有機農業の面積の拡大
- 食品製造業の労働生産性の向上
- 持続可能性に配慮した輸入原材料調達を実現



戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発(技術開発目標)
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現(社会実装目標)
※政策手法のグリーン化: 2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。2040年までに技術開発の状況に基づき、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを旨とする。補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスファイナンス要件を充実。
※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済 持続的な産業基盤

- ・輸入から国内生産への転換(肥料・飼料・原料調達)
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした生産者のすそ野の拡大

社会 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした、多様な人々が関わる持続的な循環社会

環境 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

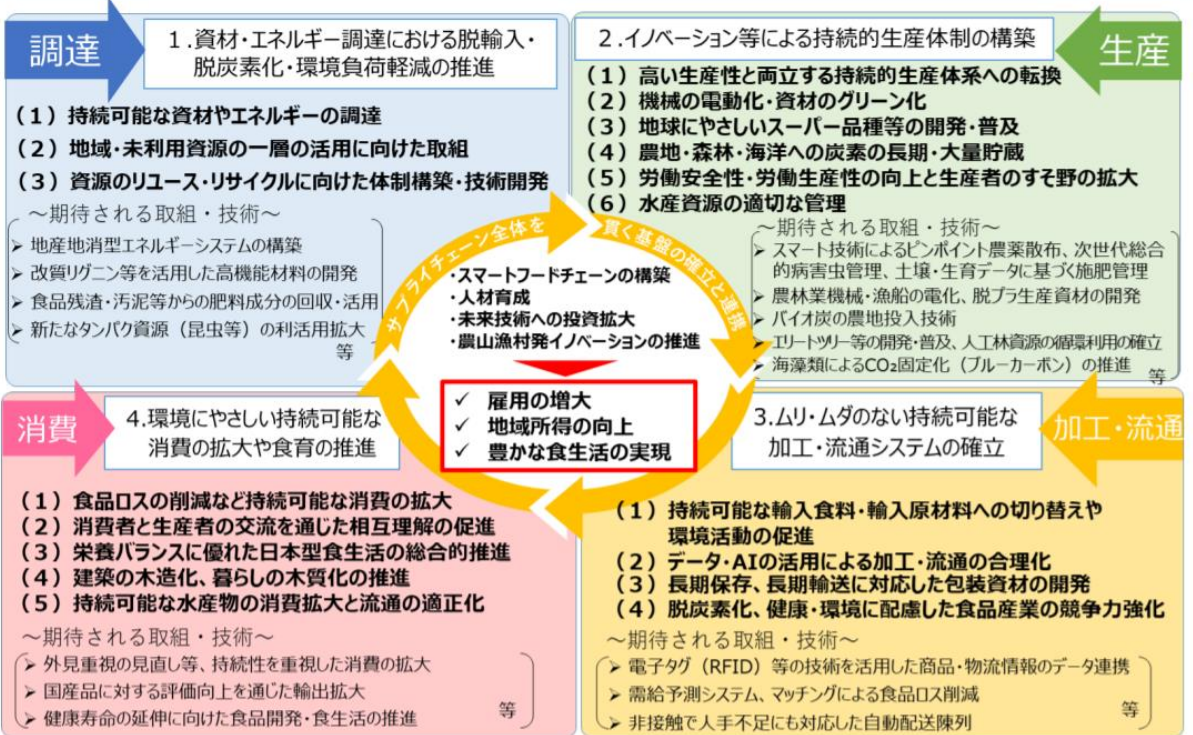
- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続可能な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画(国連食料システムサミット(2021年9月)など)

参考4 みどりの食料システム戦略 策定に当たっての考え方(2)

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

令和2年12月21日



出展: https://www.affrc.maff.go.jp/docs/smart_agri_pro/pdf/kobo/r3_smart_agri_pro.pdf



これからの農業

農林水産省「みどりの食料システム」戦略

スマート技術など

生産性の向上

需給バランスの
取れた販売

持続可能な農業発展

地球環境保護



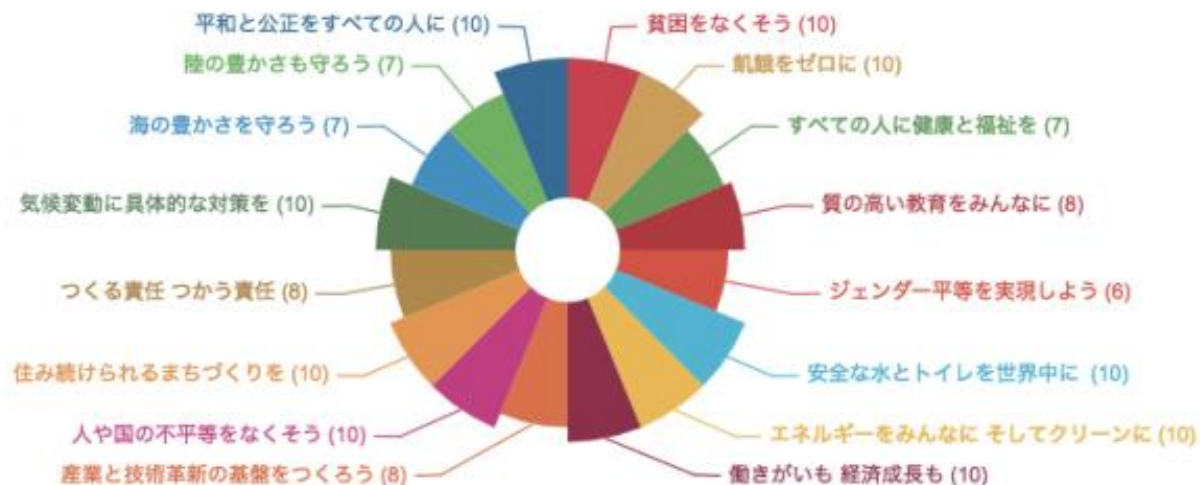
これからの農業

誠和の次の取組の一例

SDGsのスコアリング



あなたのブルーナンバー



生産現場の持続可能性
 加工現場の持続可能性
 消費者の持続可能性

持続可能性を意識した
 農業発展への取組の推進

With ブルーナンバー財団



これからの農業

佐賀市CCCSすごかガーデン構想

